

給食調理員さんにお礼の手紙を書こう（五年）

―行事「もりもり給食ウィーク」と関連させて―

東京都足立区立扇小学校教諭

神永裕昭

語彙指導には、二つの軸が考えられます。それは「量」と「質」です。もちろん明確に分けることができるものではありませんし、二項対立で大切なのは量が質かと考えることは全く意味がないでしょう。しかし、指導者が「量」と「質」の二軸を意識して授業を構成することは重要だと考えます。

語彙は、頭の中でその意味のつながりのネットワークとして構成されています。例えば「感謝」という言葉からは、「御礼」「谢意」「謝辞」「ありがとう」「サンキュー」などの言葉がつながって引き出されます。そして、対象・状況・方法等の文脈を考慮したうえで、引き出された言葉の中から使用する言葉を選択します。「量」という語彙幅をもとに「質」という文脈を考慮して決定する思考の流れです。

「量」は、読書であったり、他者の言葉に興味をもったりすることで広がりが生ま

れます。「質」は、さまざまな文脈の中で意識的に選択し、使うことで高めることができると考えます。

「もりもり給食ウィーク」

本校には、年に三回、「もりもり給食ウィーク」という行事があります。その週は、完食を目ざすことと片づけをきれいにすることが学校全体の給食の目標として設定されます。その第一回目が六月にあります。「もりもり給食ウィーク」は、いつも当たり前に出てくる給食について改めて考えるよい機会といえます。そこで、「もりもり給食ウィーク」と関連させて、「給食調理員さんにお礼の手紙を書く」という学習を設定しました。

この学習のねらいは、語彙の量を増やし、語感や使い方の感覚を意識して文章の中で

使用することです。次のような学習の流れを設定しました。

- 一時 学習活動の流れを知り、給食調理員さんへのお礼の手紙の下書きを書く。下書きの手紙を語彙の視点で振り返り、学習材となる一語を決める。
- 二時 前時に決めた一語から語彙を広げる学習をする。広げた語彙を見渡し、自分が使いたい言葉を選択する。
- 三時 給食調理員さんにお礼の手紙を書く。

「おいしい」の表現を広げよう

一時の学習の最後に、書いた手紙の下書きを読み合い、多くの子どもの手紙の中にあった「おいしい」という言葉に着目して、次時の授業を展開することにしました。

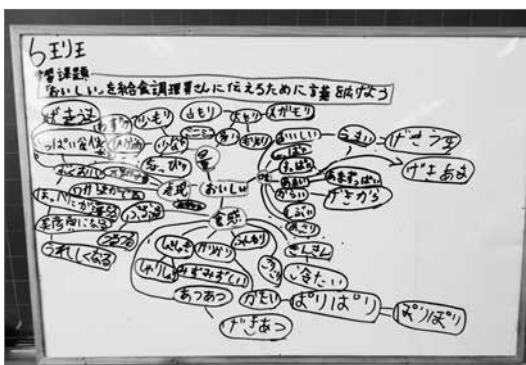
二時の学習課題は、「おいしい」を給食

調理員さんに伝えるための『言葉』を広げよう。」です。本時では、まず班ごとにホワイトボードを使って、語彙を広げる活動を行いました。「おいしい」に関連する観点として指導者が「味」「食感」「量」「表現」を提示し、これらの観点から関連する語彙を広げていきました（※1）。次に、一時に書いた手紙の下書きを持ちながら、他の班のホワイトボードを自由に見るギャラリーウォークを行いました（※2）。このときに使っていた言葉を考え、選択するように伝えておきました。できるだけ普段使わない言葉を選んでチャレンジしてみようと声をかけました。

「子どもたちの学習の振り返り」

私は「ふわふわ」と「しっとり」を使うおうと思います。かぼちゃのケーキが好きなので「かぼちゃのケーキはいつもふわふわでしっとりしているところが好きです」というふうに使いたいと思っています。「待ちきれない」「言葉にできない」も使おうと思います。いつも給食の時間が楽しみだからです。今回の学習で「おいしい」という言葉から、いろいろな言葉につながりました。その中でよくは「ほっぺが落ちる」という言葉を使ってみることにしました。おいしいという思いがきちんと伝わると思ったからです。

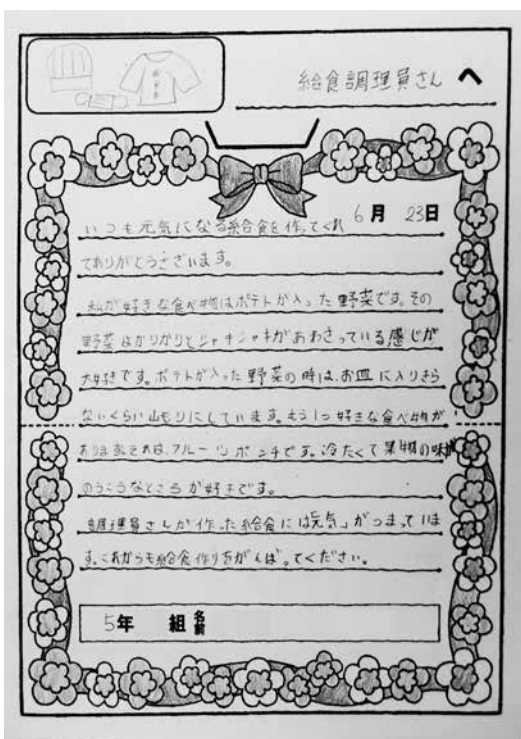
本実践は、低学年でも中学年でも実践可能です。ポイントとは、二時の学習でどの言葉を取り上げ、どのように広げて語彙の「量」を増やすかという点です。使う言葉の選択肢を増やして、その中から言葉を選択することで、「質」にもつながっていくと考えます。



▲※1 ホワイトボードを使って語彙を広げる活動



▲※2 他の班のホワイトボードを見る「ギャラリーウォーク」の様子



▲※3 児童の手紙